

アムネスティ日本 ユースフォーラム ユース代表選出に関する提言

1) 年齢制限について

15 歳以上、30 歳未満

下限の年齢について

- ・高校生でユース代表を希望する者が多いため、両親の承認と協力が得られるならば、下限年齢を制限してしまうことは不適切である。
- ・他国のユースと対話することを考えると、現ユースの方が発言しやすい。また同世代で話を進めるほうが、議論の活性化が期待できる。加えて、現ユースが経験・学習を進めている国際紛争や気候変動のような現代の特徴的社會問題を踏まえて、ユースにしかできない議論をすることができる。
- ・スタディーグループの学習を通じて、ユースを育てる環境を作ることができれば、年齢によるハンディキャップを無くすことができる。
- ・代表団が3名のなかで、ユースとして高い年齢の代表者が会議に参加すると、将来のアムネスティ日本を強化することに繋がらない。

以上より上記の年齢でのユース代表募集を求める。

2) 言語の問題について

言語能力は必須スキルとしない。但し、代表者に決定した場合は意欲的な学習を求める。

- ・ワークショップや議題の理解を深めるために、英語の能力は必要である。しかし、現ユースネットワーク参加者の傾向から見ると、英語の能力に長けている者が多い。
(今回のユース内議論においても6割以上が帰国生だった)
- そのため、代表者の言語スキルを支援することができる環境が整っていると考えることができる。英語のスキルは、スタディーグループの議論を英語で実施することや、議題資料の日本語翻訳をフォーラム内メンバーが手助けすることで、言語の障壁を解決することができる。

以上より、言語の能力により立候補資格を制限してしまうことは、適切ではない。

言語能力以上にコミュニケーションスキルや知識量に重点を置いて選考すべきである。

3)知識の問題について

アムネスティの知識（インターナショナルとして、および日本支部として）や2025年度グローバル会議の議題および、時事知識について積極的に学習に取り組める者。

・アムネスティ日本のユース代表者として赴くため、会議では有意義な時間を過ごし、アムネスティに影響を与えるとともに、日本ユースネットワークにおいても良い影響をもたらすことを望む。そのためには、議論や他国のユースとの交流を活発的に行う必要がある。この活発性の土台として、豊富な知識や社会問題についての意見形成、自他の価値観を大切にした対人コミュニケーション能力が必要と考えられる。そのため以下のような活動に参加することを推奨したい。

推奨事項

- ・過去の議論の復習。
- ・日本支部の企画や活動への参加。
- ・他のネットワーク活動へ参加（分野にとらわれず、多様な人権分野に興味を持つため）
- ・時事問題の学習。
- ・代表団の打ち合わせへの積極的な参加。

以上の取り組みを通して、豊富な知識と豊かな人間性を持ち合わせて会議に臨むことを期待する。

4)その他検討項目

- ・ユースフォーラムおよびスタディーグループへの参加。
- ・アムネスティ学生会員への登録（ニュースレターを含む情報媒体での学習や内部情報保護の観点から）
- ・会議参加後に報告会を実施する。
- ・代表任期終了後もアドバイザーとしてユースの手助けを行う。

これらの複合的な条件を課すことにより、現在および、将来のアムネスティの発展に寄与することを望む。

以上4項目より、代表の公平な選出を要請する。

また、代表者にはユースフォーラム・スタディーグループにおける議論を共に行い、共同して成長していくとともに、会議に参加して積極的な発言をして日本支部の意見を発信すること、同時に他国のユースとの交流を通じてインターナショナルとしての活動の道を模索してほしい。

ユースフォーラムからの要求項目

- ・会議について学ぶ機会を設定してほしい・
- 会議用語や議長、書記の基本的な考え方などユースとして意見を形成するためのスキル習得をしたい。
- ・選考者の状況について開示していただきたい。(どんな方が代表になるのかをあらかじめ知っておきたいため)

2024年11月4日 アムネスティ日本 ユースフォーラム